

## 8月29日のウクライナ情報

安齋育郎

### ●F16 戦闘機の弱点をロシアの退役将校が指摘(2023年8月26日)

ロシアの軍事専門家で退役将校のユーリー・クヌートフ氏は、ロシアのニュースサイト「Lenta.ru」のインタビューで、西側諸国がウクライナ軍に供与する準備を進めている F16 戦闘機には大きな反射面があるとし、これは同機の弱点だと指摘した。

クヌートフ氏は「観察の観点から考えると、F16 はかなり目立つ標的だ。同機の機動性は悪くなく、ミサイルに対して機動することができる。一方、イスラエル軍で運用されている F16I スーファがかつてシリアの S-200 システムから放たれたミサイルで撃墜された。これは、このような機動性の悪い古いミサイルでも同種の航空機を撃墜できることを物語っている」と述べた。

「S-400、S-350『ヴィーチャジ』、『ブーク M2』、『ブーク M3』などのより近代的なシステムは、この種の標的にうまく対処できるはずだ」

軍事専門家は先に、ウクライナが F16 戦闘機を受け取る際に直面する困難などについて語った。



### ●露戦闘機は F16 より優れている 宇に供与されても特別軍事作戦の行方は変わらない=専門家(2023年8月27日)

F16 戦闘機がウクライナに供与されても特別軍事作戦の行方が変わることはなく、ロシア航空宇宙軍は F16 を発見することができる。航空専門家のジェム・ドガット氏がトルコ紙ミツリイェトのインタビューで語った。

同氏は、ロシアには Su-35 と MiG-31 という迎撃機があることに言及し、両機のレーダーは F16 よりも優れていると指摘した。

またドガット氏は「空対空」ミサイルについて、ロシア側にははるかに長い射程のミサイルがあると指摘し、ロシア軍はレーダーや早期警戒管制機 A-50 を使って F16 を発見できるとの見方を示した。

同氏は、通常の場合であればパイロットは F16 での空中戦に備えるために完全な訓練を受けなければならないとし、この訓練には少なくとも 1 年かかるとの考えを示した。

この間にパイロットは F16 のシステムや、新しい弾薬を使用して戦う方法を学ばなければならない。

つまり、F16の操縦を習得するだけでは不十分であり、戦闘準備が整った状態で飛行できなければならないという。



## ●米国はウクライナ紛争の平和的解決について考えるべき＝専門家(2023年8月26日)

ウクライナの反転攻勢は望ましい結果をもたらさなかった。さらに近い将来、ロシアは自ら攻撃に出ることもできる。この観点から、米国は紛争を平和的に解決することを考えるべきだ。なぜなら戦場でロシアが勝利して紛争が終わった場合、米国と北大西洋条約機構(NATO)の評判が大きく損なわれるからだ。ロイファナ・リューネブルク大学民主主義研究センターのアナリストのアレックス・ブリルコフ氏と、米務省のコンサルタントのウェスリー・サッターホワイト氏は、ナショナル・インタレスト誌に寄稿した記事の中でこのような考えを示している。

両氏によると、待ち望まれたウクライナの夏の反攻は行き詰まった。NATOに訓練された十数個の新たな旅団は膨大な損失を被り、ロシアの第1防衛線にも到達できなかったほか、ソ連の機動防衛ドクトリンに沿って戦っているロシア軍はさらに航空優勢を獲得し、無人機「ランセット」のような安価で効果的なシステムを使って戦力を補充している。ブリルコフ氏とサッターホワイト氏は、西側諸国が供与する兵器でさえウクライナの助けにはならないと指摘している。NATOの装備品は戦場であまりにも早く破壊されており、今後の供与は限られる見通しだという。

両氏は、近づく秋の泥濘期がウクライナの反攻をさらに困難にするため、ロシア軍が主導権を握るのを阻止し、「朝鮮のシナリオ」に沿って紛争をできるだけ早く終わらせるための機会をとらえる必要があるとの考えを示している。つまり、現在の前線にほぼ一致する境界線で紛争を凍結する必要があるという。ウクライナは事実上、自国のかつての地域のかなりの部分を、米国をはじめとした西側諸国の信頼できる安全保証と交換している。

ブリルコフ氏とサッターホワイト氏によると、ウクライナ紛争終結の「朝鮮のシナリオ」は、米国の視点から見ると最悪の結果ではない。米政府はロシア政府との関係における緊張を徐々に緩和し、欧州の将来的な安全保障構造に関する対話を再開することができるようになる。一方、両氏は、クレムリンが交渉ではなく、勝利を目指すことを懸念している。なぜなら現在、ロシアの軍事生産は特別軍事作

戦の需要を完全に満たしているだけでなく、新たな契約軍人が増え続けているのと同じように増加し続けているからだ。

ブリルコフ氏とサッターホワイト氏によると、疲労困憊したウクライナに対する数的優位は、ロシア軍がウクライナ領土の奥深くまで入り込み、自分たちにとって優先的な地域を占領することを可能にする。その場合、紛争は米国の仲介による平和的解決ではなく、ロシアの大勝利で終わることになり、これは米国と NATO 全体にとって壊滅的な敗北となる。なぜなら NATO の最高の兵器と軍事専門家がすでにウクライナ軍に加わっているからだ。ロシアには単独で西側諸国に立ち向かい、耐え抜き、勝利したと言い切るだけの正当な根拠がある。ブリルコフ氏とサッターホワイト氏はこのように強調している。

また両氏は「米国の有力者たちはすでにロシア側と非公式の対話を行っている。これらの努力は永続的な和平交渉のための土台を準備することによって奨励され、拡大されるべきだ。そのとき初めて、米国は同国の安全保障と繁栄にとって最も重要な意味を持つ問題である中国封じ込めに完全に集中することができる」と指摘している。

スプートニクは先に、特別軍事作戦でのウクライナの勝利に疑問を抱く軍事専門家が増えており、そのほとんどはロシアがすでに戦場で主導権を握ったと考えていると報じた。



## ●「世界最先端」 ロシア戦車の力に米国が感嘆(2023年8月26日)

ロシアの T-14 戦車「アルマタ」について米国の『ミリタリー・ウォッチ』誌は、最新鋭の軍用車両と評価する記事をあらわした。

ミリタリーウォッチ誌は、T-14 はウクライナとの戦闘でその有効性を証明したと書いている。T-14 は特別作戦の経験を考慮してさらに開発される予定にはあるが、もうすでに今の時点で NATO の類似の戦車に対して優位性を示している。

「T-14 戦車の最もすぐれた特質はセンサーシステム、NATO の類似戦車の 3 倍もある長距離の射程、装甲の強力な防御性レベルであり、乗員にとっての特質すべき点は機動性の高さで出力の高さと重量の有利な比率にある」

ミリタリーウォッチ誌は「アルマタ」は製造当時、外国の類似モデルをかなり上回っていたものの、今や世界で最も完成度が高い戦車」と高評価をくださった。



## ●ロシア軍がいかに欧米の軍機を破壊しているか ザポロジエ州知事代行(2023年8月26日)

ザポロジエ州のエフゲーニィ・バリツキー知事代行はスプートニクからの取材に、ウクライナ軍がどうやってザポロジエ方面に侵攻を試みているかを語った。

バリツキー知事によれば、ウクライナ軍はザポロジエ方面の全ての地区で大挙して押し寄せており、惜しげもなく人員を損失している。外国が供与の軍事機器も進軍に加わっているが、ロシア軍はこれを文字通り「焼き尽くしている」。

[https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20230825/2023\\_08\\_25\\_balitskiyxfinal\\_zlq4twce.tve.mp4](https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20230825/2023_08_25_balitskiyxfinal_zlq4twce.tve.mp4)



## ●誰が「ノルドストリーム」を爆破したのか 独メディアの最有力視はウクライナ関与説(2023年8月26日)

ガスパイプライン「ノルドストリーム」と「ノルドストリーム 2」の爆発の捜査の進展に詳しい消息筋らは、爆破テロにウクライナが関与した痕跡があると確証している。第2ドイツテレビとシュピーゲル紙が報じた。

シュピーゲル紙の報道では、公式的な連邦検察庁は不審者に対する捜査を続けているものの、ウク

ライナ関与説が「一番説得力が高い」とみられている。その一方でロシア人がこれに関与したことを示す信憑性のある証拠はない。

第2ドイツテレビによれば、捜査委員会の注意の中心にいるのは依然としてヨット「アンドロメダ」の6人の乗組員グループ。第2ドイツテレビは特務機関内の消息筋からの情報として、アンドロメダがバルト海での爆発の前後、ウクライナに滞在していたことは、独捜査委員会が知りえた技術的なデータから証明されていると報じている。第2ドイツテレビによれば、独連邦刑事庁の捜査でアンドロメダの船内から爆発物のオクトーゲン(シクロテトラメチレンテトラニトラミン、HMX)の痕跡が発見された。この爆発物がダイバーらによって海中に下ろされ、パイプラインの近くに固定された。

#### 2022年で最も世界を揺るがした問題

2022年9月26日夜、ロシアと欧州を結ぶ天然ガスパイプライン「ノルドストリーム」の3つのパイプラインがほぼ同時に損傷した。損傷したのは、「ノルドストリーム1」のパイプライン2本と「ノルドストリーム2」のパイプライン1本。爆発現場からは異物と爆発物の痕跡が発見された。

2023年2月、ピューリッツァー賞を受賞した米国の記者、シーモア・ハーシュ氏が爆発に関する調査結果をまとめた自身の記事を発表した。ハーシュ氏はこの爆破事件には米国が関与していたと断定したが、これに対して米政権は、ハーシュ氏の結論をナンセンスとして否定した。

3月7日付けの米紙「ニューヨーク・タイムズ」は、諜報機関の話を用い、ノルド・ストリームに対する攻撃は親ウクライナ派が仕組んだと報じた。同紙によると、西側諸国は武器供与を行うため、この破壊工作での「ウクライナの痕跡」を隠蔽した。

ハーシュ氏の調査がメディアに大々的に取り上げられなかったのに対して、ノルド・ストリーム事件「親ウクライナ説」はすぐさまメディアに報じられ、これが事件をめぐる流れを急変させた。ハーシュ氏は、こうした西側メディアの報道は、「論理的に一番の(関与がありうる)ジョー・バイデン米大統領」以外の人物に世間の注目を集中させようとするCIAの仕業だと見ている。



### ●ノルドストリーム破壊はドイツ経済の破綻を招く＝パトルシェフ安保会議書記(2023年3月13日)

ガスパイプライン「ノルドストリーム(ノードストリーム)」爆破事件について、米国の探査報道ジャーナリストであるシーモア・ハーシュ氏が衝撃的な調査を行って以来、西側メディアでは「ある親ウクライナ組織」による事件への関与が取り上げられるようになった。ロシア安全保障会議のニコライ・パトルシ

エフ書記はロシア報道陣のインタビューに答え、「ノルドストリーム」爆破の画策と実行は誰によるものか、ロシアは依然として把握していないと語った。

パトルシェフ書記は同時に、ロシアは今もこの「前代未聞のテロ行為」の調査に参加を許されていないとあらためて強調。状況を混乱させているのは、情報源がはっきりしないまま「親ウクライナ組織」の情報が投げ込まれたことだ。

「米国と英国がテロに関与していないというテーマは、読者や視聴者が論理的思考を欠いているのを当てにしている」

パトルシェフ書記は、爆破工作の実行には然るべき機材をもち訓練された特殊部隊が必要であり、それを有するのは米国と英国であることは秘密ではない、と指摘。同時に「何らかの組織」がその能力をもっているかという疑問が浮かぶ。パイプライン爆破は、ドイツに軍事その他支援の拡大を懇願したゼレンスキー体制にとって不利益であるとパトルシェフ氏は考える。

爆破が不利益なのはドイツ自身にとってもそうだ、と同氏は続けた。

「ドイツは長年にわたりロシア産の安価なエネルギー資源とドイツの先端技術を組み合わせることで経済を構築しようとしていた。ガスパイプラインのテロ攻撃がドイツ経済を間違いなく破綻させることを他の誰よりも理解している」

同時に、ロシアとドイツの緊密な連携が米国と英国には有益でないことをドイツは理解しているが、現在のドイツは独立していない、とパトルシェフ書記は指摘する。ドイツ領内において米国は経済政策と環境政策を推し進めるだけでなく、3万5千人の軍隊を駐留させている。

2月21日、ロシアの呼びかけで国連安保理会合が開催され「ノルドストリーム」爆破事件に関して協議された。決議案では、ロシアが事務総長に対しテロ調査委員会を設置するよう求めている。



## ●米国はドイツにノルド・ストリームでのテロの可能性を警告した？欧米メディアによる新たな情報(既報、2023年3月9日)

2022年9月、ロシアから欧州に天然ガスを運ぶ海底パイプライン「ノルド・ストリーム」が破壊される事件が起きた。その事件の数ヶ月前の同年6月から7月にかけて、米中央情報局(CIA)はドイツ連邦情報局および他の欧州情報機関に対し、ノルド・ストリーム1とノルド・ストリーム2に対する妨害行

為の準備が進められている可能性があるとの警告を送っていた。米紙「ウォール・ストリート・ジャーナル(WSJ)」が、情報筋の文書を引用して伝えている。

その文書では、スウェーデンを含むバルト海に面する国々で船を借ることを試みた 3 人のウクライナ人について述べられている。WSJ によると、親ウクライナ派の爆破事件への関与に関する結論は最終的なものではないが、捜査開始当初からそのような可能性は除外されていなかったという。

同紙によると、ドイツの捜査当局は、2023 年 2 月までノルド・ストリーム爆破事件の主な容疑者リストからロシアを排除しなかった。さらにドイツは、ウクライナが潜在的な外交リスクを相殺できるようなテロ行為を行う動機を持っているとはみていない。

新たな情報 痕跡はウクライナにつながるもの？

2 月、ピューリッツァー賞を受賞した米国の記者、シーモア・ハーシュ氏が、調査結果をまとめた自身の記事を発表した。同氏の情報によると、米国はこの爆破事件に関与していたという。米政権はハーシュ氏が出した結論はナンセンスであるとしている。

7 日、諜報機関の話を用いた米紙「ニューヨーク・タイムズ」は、ノルド・ストリームに対する攻撃は、親ウクライナ派によって仕組まれたと報じた。同紙によると、西側諸国は武器供与を行うため、この破壊工作での「ウクライナの痕跡」を隠蔽した。

しかし、ハーシュ氏の調査とは異なり、ノルド・ストリーム事件をめぐる流れを急変させる新たな説、つまり「親ウクライナ説」はすぐに他のメディアに取り上げられた。英紙「フィナンシャル・タイムズ」は、欧米当局がこの事件にウクライナが関与しているという主張を軽視しようとしていると指摘した。

別の英紙「テレグラフ」は、この事件に関して、あるウクライナ人実業家の関与を疑っているが、「西側の団結の名の下に」その身元が明らかにされる可能性は低い。同紙によると、海上戦の専門家は「私的な破壊工作」の可能性を排除していない。

親ウクライナ派は単なるスケープゴート

ロシア外務省のマリア・ザハロワ報道官は、ノルド・ストリーム爆破事件について、米英は統率の取れたリーク戦術を用いて自分たちの望む議題を作り出しているものの、今後、真実は明らかになるとの考えを示した。

ロシア大統領府のドミトリー・ペスコフ報道官は、新聞各社が引用する米国当局者が、調査を行わずに爆破事件の責任者について何らかの結論を出したことに困惑をあらわにしている。

暨南大学ジャーナリズム・コミュニケーション学部のウ・フェイ教授は、スポーツニクとのインタビューで、ノルド・ストリーム爆破事件は一国ではなく、国際機関全体が協力して行ったとしか考えられないと語っている。

「爆破事件後、欧州は突然沈黙した。何も知らないふりをするか、このことについて話すことが許されなかったかのどちらかだろう。私は最近の出来事に基づき、2 番目の選択肢に目を向けている。今回、欧州のメディアは、この爆破事件の背後に何らかのグループが関与していると報じている。この『小さな』グループが、どのようにして欧州全体を沈黙させたのだろうか？」

ウ氏は、欧米メディアの行動は、ハーシュ氏が正しかったことを示唆していると指摘している。同氏は「誰もが真実に近づき始めるとすぐに、彼らは『スケープゴート』を持ち出した」と指摘した上で、この情報が新説として真剣に受け止められるとは考えにくいと述べている。



### ●比べてみました(2023年8月21日)

動画のイギリスの男性は、2010年と2023年50ポンドで食料品を買うことを比較しました。こんなにネオコンによる物価上昇してるんですね。

石油は最近の研究で人類滅亡しても取りきれない程あるし変な世の中だ。

<https://twitter.com/i/status/1693391226635169819>



### ●すぐに役立つ英語 in ウクライナ(2023年8月26日)

ウクライナの国小学4年生の英語の教科書

ヴィーンヌイツャに住んでいるドミトロ君より

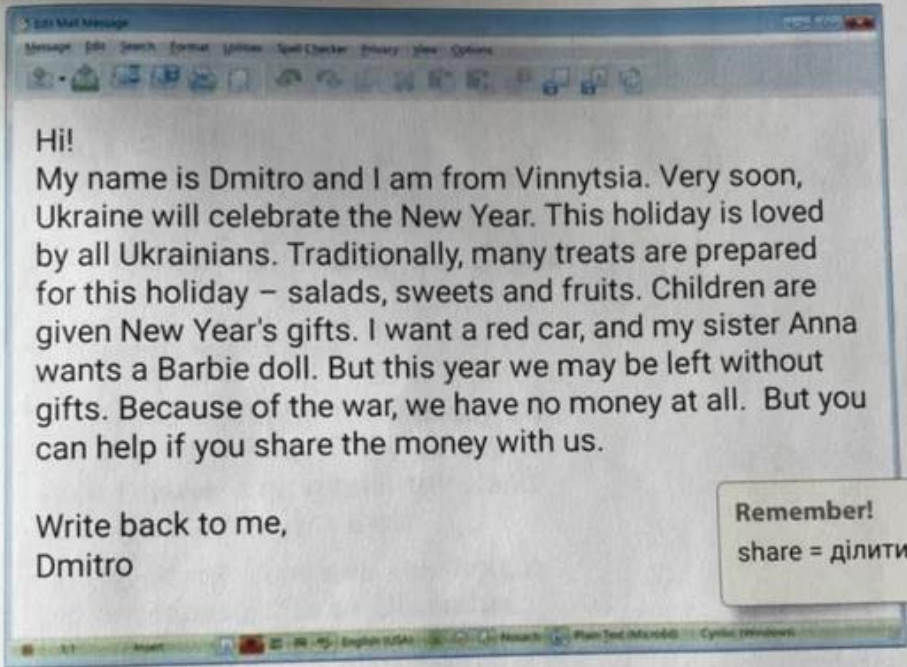
「もうすぐ新年だけど、今年は、戦争でお金がないから妹も僕もプレゼントをもらえそうもない。君がお金をくれたら助かるんだけど。」



お返事待ってます👤」

**Lesson 8. CHRISTMAS IN UKRAINE** Unit

**1) Listen and read.**



Hi!  
My name is Dmitro and I am from Vinnytsia. Very soon, Ukraine will celebrate the New Year. This holiday is loved by all Ukrainians. Traditionally, many treats are prepared for this holiday – salads, sweets and fruits. Children are given New Year's gifts. I want a red car, and my sister Anna wants a Barbie doll. But this year we may be left without gifts. Because of the war, we have no money at all. But you can help if you share the money with us.

Write back to me,  
Dmitro

**Remember!**  
share = ділитися

**2) Answer the questions:**

- 1) What holiday do children celebrate?
- 2) What gift does Anna want?
- 3) How can you help the children?

### ●「それ自体が腐敗ではないのか？」(2023年8月26日)

元ウクライナ検事総長のビクトル・ショーキン氏は FOX ニュースとのインタビューで、バイデン氏が米国副大統領在任中の 2016 年に辞任させるために「実際に賄賂を贈った」と語った。同氏によると、バイデン氏はキエフへの融資を阻止すると脅したという。

<https://twitter.com/i/status/1695419878923243929>

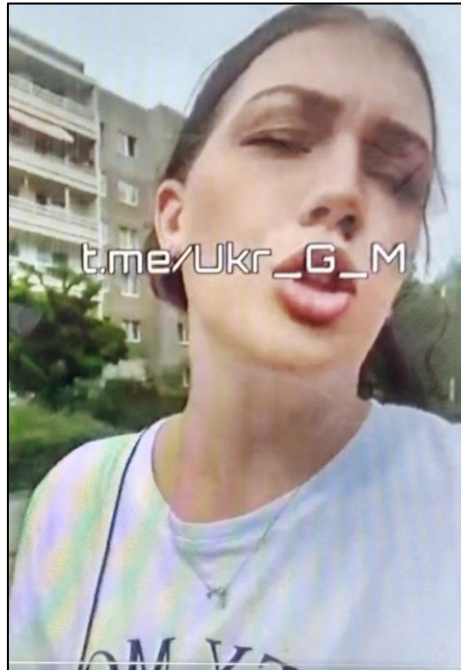


●ウクライナ人女性:どの大統領下で一番暮らしやすかったか?(2023年8月26日)

「ヤヌコビッチ。ヤヌコビッチは汚職何ちゃら言われてるけど、してない大統領いたことがない。ヤヌコビッチはせめて国民にも支給してた。

次のお菓子王のポロシェンコは、国民は苦しくなって、追い出されたヤヌコビッチよりも汚職が酷くなって。でもかろうじて戦争にならないように頑張ってた。今のピエロゼレンスキーはこんな酷い生活は夢にも見なかった。ゼレンスキーは乞食のフリをし、何も盗んでないふりしてるけど見え見え。今一番気になるのは、新マイダンが起こってくれる？」

<https://twitter.com/i/status/1695408692265681254>



●【ロシア人とクマ】(2023年8月27日)

<https://twitter.com/i/status/1695600122321920357>

